

海軍水雷學校關係別紙及參考諸表目次

別紙第一 掌水雷兵教育ニ關スル意見書

別紙第二 大正十五年特命檢閲諮問々題ニ對スル水雷學校長答申

參考表

其ノ一 海軍水雷學校水雷術教程變遷一覽表

其ノ二 水雷術傳習初期ニ於ケル實地作業一般

其ノ三 海軍水雷學校練習艦艇變遷一覽表

其ノ四 歴代所長校長官氏名竝ニ就退任年月日一覽

別紙第一

掌水雷兵教育ニ關スル意見書

大正二年二月二十七日

筑波艦長 鈴木 實 太 郎

小官先ニ職テ水雷學校ニ奉ズルヤ當時水雷兵ノ教育科目多端ニ過ギ短日月ノ間ニ之ヲ習得スルハ頗ル困難ニシテ其ノ養成シ得タル伎倆ガ日進月歩ノ狀勢ニアル現海軍ノ要求ニ適セザルヲ認メ水雷兵ニ對スル教育方法ヲ改正スルノ必要ヲ感ジタリシガ其ノ後敷島筑波ノ艦長ヲ經テ直接水雷兵ノ拙劣ナル伎倆ヲ目撃スルニ及ビ益々其ノ所感ヲ深クシ之ガ改善ノ途ヲ講ズルハ職闘力ノ發展上一日モ忽諸ニ附スベカラザル急務タルヲ信ズルニ至レリ即チ管越自ラ揣ラス敢テ愚見ヲ陳述スントス

抑モ水雷兵ノ教育ハ二十餘年前ノ舊制ヲ襲ヒ今日ニ至ルモ尙魚形水雷敷設水雷及電氣ノ三科目ヲ併セ教授スルモノニシテ水雷學校ニ於ケル教育時間ハ十數年前ト大差無キニ拘ハラズ爾來魚形水雷及電氣ノ發達ハ至大ニシテ其ノ學理ノ精緻ニシテ器具ノ精巧ヲ極ムル單ニ其ノ一科ヲ修得スルノミニテモ尙多大ノ勞苦ト不撓ノ勤勉ニ俟タザルベカラズ況ンヤ三科目ヲ兼習スルニ於テオヤ學校教育ヲ終リタルノミノ水雷兵ノ伎倆ノ拙劣ナルハ素ヨリ止ムヲ得ザルナリ近來水雷兵ノ教育時間ヲ延長セラレタルモ之ガ爲ナリト信ズト雖僅々二、三箇月ノ延長ヲ以テシテハ果シテ豫期ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ大ニ疑無キ能ハズ右ノ如ク學校教育ニ於テ刻苦勵精三科目ヲ兼習セル水雷兵ガ艦船部隊ニ配置セラレタル後如何ニ其ノ實務ニ從事スルカ之ガ實況ヲ查察スルニ内令ニ依リ示サレタル水雷兵總員平時二五四七人中約六十五「パーセント」ハ魚雷ノ勤務即チ發射管員水雷砲臺下士又ハ水雷倉庫員等ニ配置セテレ自餘ノ

三十五「パーセント」ハ電氣又ハ敷設水雷ノ勤務即チ艦内電路員電燈員又ハ敷設隊員等ニ配置セラルルコト大體左表ノ如シ

水雷兵 配員概數表

本表ハ横須賀所管艦船ノ現在配員ヲ基礎トシ推算セルモノナレバ實際ト幾分差違アルベシ

艦別	魚雷勤務	電氣勤務	敷設水雷勤務	總計
軍艦	七九九	五二一		一三二〇
驅逐艦	水雷艇	一二		七三五
敷設隊	防備隊		三六一	三六一
諸部	一一一	一〇		一二一
合計	一六四三	五四三	三六一	二五四七
戰時増加員	三四	二六	四三七	四九七
戰時合計	一六七七	五六九	七九八	三〇四四
			戰時總員	三四四
			平時總員	二五四七

而シテ一旦之等ノ專門業務ニ配置サレタル者ハ概ネ其ノ業務ニ終始シテ他ニ移ラザルヲ常トス即チ一旦魚雷ニ配置サレタル者ハ電路員又ハ敷設隊ニ轉ズルコト稀ニシテ電路員又ハ敷設隊ニ配置セラレタル者ハ魚雷ノ勤務ニ移ル者ナシ之レ畢竟其ノ配置ノ專門業務ニ關シテハ漸次熟練ヲ積ムモ之ト同時ニ曾テ學校教育ニ於テ兼習シタル他ノ科目ニ對シテハ漸次忘却シ年月ヲ重ナルニ從ヒ全ク其ノ伎倆ヲ認ムル能ハザルニ至ルヲ以テ實際他ノ業務ニ配置スルハ甚ダ不利ナルヲ以テナリ

由是觀之、學校教育ニ於テ三科目ヲ兼習セシムルモ實際ノ業務ニ從事スルハ單ニ一科ノ專門ナレバ初メヨリ一科ヲ專攻セシムルノ容易ニシテ且ツ確實ナルニ如カザルヤ明白ナリ殊ニ魚雷ト電氣及敷設水雷トハ學術上何等ノ連絡無ク全ク無交渉ナルニ於テオヤ唯茲ニ考慮スベキハ敷設水雷ト電氣トハ學術上基礎ヲ同クシ技術上ニ於テモ過半ハ同一視スルヲ得ベク其ノ伎倆ノ點ニ於テ相流用ス

ルニ難カラズ又學校教育ニ於ケル學期ノ都合ヨリ察スルモ之ヲ兼習セシムルニ充分ナレバ此二科ハ寧ロ兼習共通ナラシムルヲ得策ト信ズ

本問題ハ數年來屢々論議サレタル處ニシテ決シテ斬新ノ事項ニアラズト雖其ノ當時ニアリテハ主トシテ水雷兵ヲ魚雷ト敷設水雷ノ二科ニ區分シ電氣ハ單ニ敷設水雷ノ附屬タラシムル見地ニ於テ立論セラレシカバ敷設水雷科ノ志願者皆無ナルベシトノ危悞ヲ抱キ有力ナル反對アリテ今日迄決定ヲ見ザリシコトト信ズ然レド爾來電氣科ノ發達ハ優ニ敷設水雷科ヲ凌駕シ主客顛倒ノ位置ニアルヲ以テ今ヤ電氣ヲ主トシ敷設水雷ヲ從トスルノ見地ニ於テ教育方針ヲ樹テザルベカラズ然ルトキハ志願者ノ有無ノ如キ決シテ變フベキ問題ニアラザルヤ論無キナリ

以上所説ニ基キ現時ノ教育制度ヲ如何ニ變更スベキヤ具體的ニ述アレバ左ノ如シ

一、掌水雷兵ノ稱ヲ廢シ之ニ代フルニ掌雷兵及掌電兵ノ二種ヲ以テス或ハ掌水雷兵ノ名稱ハ其ノ儘トシ之ヲ二種ニ分チ掌水雷兵甲種、掌水雷兵乙種トスルモ可ナリ

二、掌雷兵(掌水雷兵甲種、以下做之)ノ教育ハ魚雷ヲ主トシ又驅逐艦勤務ニ於テ必要ナル機雷ノ取扱法竝ニ略掌砲兵程度ノ電氣ヲ課ス而シテ學校教育ニ於テ魚雷術ノ實地的練習ヲ尙一層完全ナラシムルヲ要ス

掌雷兵ハ軍艦、驅逐艦、水雷艇等ノ發射管員水雷砲臺下士等專ラ魚雷ニ關スル勤務ニ配置シ驅逐艦ニ在リテハ機雷敷設ヲ兼ネシム

三、掌電兵(掌水雷兵、乙種)ノ教育ハ電氣及敷設水雷ヲ課スルモノトシ學校教育ニ於テ尙一層實地的練習ヲ施シ電氣ノ如キハ電氣器具及電路ノ調整修理ニ堪フルノ伎倆アラシムルヲ要ス

掌電兵ハ軍艦ニ在テハ電路員、探照燈員等電氣ニ關スル勤務ニ配シ陸上ニ在リテハ敷設隊員ニ配置ス而シテ必要ニ應ジ海陸相互補充交代セシムルコトトシ之ガ爲ニ敷設隊教育ニ於テモ常ニ電氣術ニ關スル教育ニ注意シ彼等ナシテ軍艦ノ電路員タルニ差支無カラシム

四、現在ノ水雷兵處分ニ就テハ現在ノ配置ニ依リ魚雷ニ從事スル者ハ直ニ掌雷兵トシ電氣及敷設水雷ニ從事スル者ハ直ニ掌電兵

別紙第二

トスルカ或ハ現在ノ水雷兵ハ四、五年間其ノ儘トシ漸次新教育ヲ受ケタル掌雷兵又ハ掌電兵ヲ以テ交代セシメ同時ニ高等科ニアリテハ補修教育又ハ試験檢定ニ依リ適當ナル者ヲ掌雷兵又ハ掌電兵ニ移スコトスルモ可ナリ

之ヲ要スルニ現今ノ水雷兵教育ハ多端ニシテ實際ノ要求ニ過ギ實地ノ伎倆ニ乏シク不經濟ノ甚ダシキモノナレバ前述ノ如ク之ヲ二種ノ専門ニ區分シ專ラ其ノ一ニ全力ヲ傾注セシムルハ目下ノ急務ニシテ唯々學校教育ニ於テ至大ノ利益アルノミナラズ艦隊教育ニ於テモ訓練單一トナリ教育實施上便益アルヤ言テ俟タズ如斯ニシテ各其ノ伎倆ヲ發揮セシムルニ至ラバ我海軍ニ於ケル魚雷、電氣、敷設水雷ノ諸術共ニ其ノ面目ヲ一新スルニ至ランコト信ジテ疑ガハザル處ナリ

大正十五年特命檢閱諮問々々題ニ對スル水雷學校長答申

問 題

水雷術及通信術改善ニ關シ所見ヲ述ベヨ

答 申

海軍水雷學校長 長 澤 直 太 郎

水雷術及通信術教育改善ノ目的ハ斯術ノ向上進歩ヲ促ガシ最大ノ教育効果ヲ取メムトスルニ在リ之ヲ施設ノ上ヨリ見レバ學校、艦隊及研究工作機關ノ整理ト連繫ニ待ツベク之ヲ制度ノ上ニ求メバ將校以下人員教育ノ改善ニ歸著スベシ而カモ帝國海軍ノ現狀ハ徹底的ニ經濟的教育能率ノ發揚ヲ要求ス以上ノ見地ニ基キ項ヲ追フテ所見ノ要旨ヲ開陳セムトス

第一、教育施設ノ改善

一、海軍通信學校ノ分立ヲ急務トス

水雷術ト通信術トハ全ク其ノ體系ヲ異ニシ之ガ教育研究ノ中樞機關タル學校ハ當然分立スベキ性質ノモノニ拘ハラズ今日尙依

然トシテ一併ノ姿勢ヲ持スルハ頗ル遺憾トスル所ナリ之ガ爲通信術教育ノ進歩發達ヲ阻害スルコト極メテ大ナルノミナラズ内務並ニ施設ノ整備要具ノ充實其ノ他ノ諸問題ニ當面シ累テ水雷術ノ進歩發展ニ及ボス場合亦尠シトセズ更ニ海軍通信術體系ノ統一ヲ必要トスル見地ニ於テモ萬難ヲ排シテ至急之ガ實現ヲ要スルモノト認ム

二、潜水學校ハ之ヲ兩分シ水雷學校及機關學校ニ併合スルヲ可トス

潜水艦ガ已ニ過渡期ヲ經過シテ海軍ノ普遍的武器トナレル今日特ニ潜水學校ヲ嚴存シテ之ガ發達ヲ圖ルノ要無ク已ニ潜水學校兵科普通科學生ヲ廢セラレ水雷學校ニ於テ一般のニ之ヲ教育シテ可ナル時代トナレルニ鑑ミルモ其ノ趨勢ノ一般ヲ窺知スルニ足ラン更ニ亦之ヲ帝國海軍ノ徹底のニ經濟的教育能率ノ發揚ヲ要求セル現狀ニ鑑ミルモ體系ヲ異ニセル通信部ヲ分立シテ同一體系ノ下ニ在ル潜水艦部ヲ水雷學校ニ包容スルハ極メテ合理的ノ事ニシテ猶後段述ブル處ノ如ク斯術ニ對スル生徒教育ヲ徹底のナラシムル上ニ於テモ極メテ有効ナル方策ナリト信ズ

三、水雷術研究機關ノ統一ト連繫

惟フニ水雷術研究實驗機關ハ艦政本部、水雷學校及實驗部ノ三者ガ三昧一體トナリテ常ニ氣脈ヲ通ジテ其ノ連絡ヲ密ニシ之ニ相當ノ工作能力ト經費トヲ與ヘ統一サレタル組織ノ下ニ活動シ始メテ其ノ能率ノ大増進ヲ期待シ得ベシ

今日之ガ對策トシテ吳工廠魚雷實驗部ヲ長浦ニ移シ機雷實驗部ト共ニ水雷學校ニ專任研究部長ヲ置キ之ヲシテ實驗部長ヲ兼ねシムルガ如キ統一の組織ヲ採レバ現在ノ經費ト人員トヲ以テスルモ猶一層有効ナル實驗研究ヲ實施シ得ベク水雷術教育ノ向上發展ニ裨益スル所蓋シ多大ナルモノアル可シト信ズ

第二、教育制度ノ改善

一、將校教育ノ改善

錚々タル少壯士官ニシテ技術官ヲ啓發スルノ理論的根據無ク、サリトテ自ラ兵器ノ取扱調整ヲ指導スルノ實技的自信ナキハ殆ド我海軍ノ傳統の通弊ニシテ是レ亦教育ノ不徹底タル反影タラズンバアラズ惟フニ初級將校ニ對シテハ寧ロ兵器取扱指導ノ實地的技能ヲ賦與スルヲ本旨トシ大尉級ニ於テ理論ノ活用ト實地ノ修練ヲ爲サシムルヲ以テ重點トスルヲ適切ナル方策ナリト

認ム

而シテ現下最モ重要ナル改善ハ生徒及初級將校教育ノ徹底ニアリト信ズ

(イ) 生徒教育ノ改善

兵學校ニ於ケル兵科教程中水雷術及以下ノ教育ハ之ヲ舉ゲテ水雷學校等ニ移シ各六箇月間生徒ノ最終學年ニ於テ實地教育ヲ施スベシ 抑モ生徒ヲ兵學校ニテ教育スルコトノ缺陷ハ机上教育ノ弊ニ趨リ初級將校トシテ最モ必要ナル實地基礎智識ヲ啓發スルコト少ク實業ノ如キハ下士官、兵ノ爲スベキモノナルカノ如キ感ヲ抱カシムルニアリト信ズ而シテ此弊ヲ除カントセバ勢ヒ兵學校ニ於ケル實習機關ト要員ノ大擴充ヲ爲サザルベカラズ是レ極メテ不經濟ニシテ而カモ教育ノ効果ハ之ニ伴ハザルベシ茲ニ於テカ比較的要員施設ノ整備セル水雷學校等ニ於テ徹底的ニ而カモ一系ノ脈絡ヲ持シ得ル斯術ノ實習教育ヲ政行スルハ蓋シ最モ時宜ニ適セル對策ノミナラズ更ニ本校ノ實驗ニ鑑ミルニ生徒ニ比シ智能識量遠カニ劣レル普水練習生ガ僅ニ二箇月半ノ教育ニ於テ兎モ角自己ノ手ニテ魚雷ヲ實射シ得ルニ至ルヲ見レバ注意散漫ニ陥リ易キ兵學校教育ハ雜多ナル各種教目ヲ課スルヨリハ寧ロ之ヲ可及的輕減シテ他方ニ於テ一事一念主義教育ヲ施スノ如何ニ有効ナルヤヲ窺知シ得ベシ若シ夫レ本制度ヲ實施スルニ於テ現今ノ如キ普通科學生教程ヲ再ビ繰返スノ要ナク生徒收容ノ如キモ現設備ヲ充當セバ事足ルモノトス

(ロ) 初級將校教育ノ改善

第二期候補生時代ハ勿論次室將校ニ對シテ斯術ノ教育ヲ統一シ一層懇切ナル指導ヲ行フベシ特ニ經驗ニ於テ然リトス(中略)

二、特修兵教育ノ改善

(イ) 特修科水雷術練習生教程ヲ再設スルヲ要ス

現時ハ昔日ト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ兵器ノ進化ニ伴ヒ一層優秀ナル技能ヲ要スルト共ニ工術上ノ技能ヲ要求スルコト愈々急且大トナリ到底現制度ヲ以テシテハ優秀ナル者ヲ得ルコト能ハザル狀況ニアリ

(ロ) 高等科水雷術練習生ノ採用制度(三曹ヨリ採用)ヲ改正シテ任用資格ヲ有スル一等水兵ヲ加フルヲ要ス、否ラザレバ他兵

科ニ優秀者ヲ吸收サルルト同時ニ資格者激減シ驚クベキ事實ノ低下ヲ來スコト現狀痛切ニ之ヲ證ス
 (イ) 速ニ高等科水雷術電氣練習生ヲ高等科水雷術機雷練習生ト改稱シ名實兼テ備ヘシムルノ制度ヲ採用スルヲ要ス
 (ニ) 普通科水雷術練習生ハ現教育期間ヲ以テシテハ魚雷練習生ト機雷練習生トニ分科セザレバ到底教育ノ効果ヲ發揚スルコトヲ得ズ
 以上述べタル以外人員教育トシテハ技術官教育、專門將校教育、特務士官 准士官教育等アルモ之等ハ其ノ内容ノ一部ヲ改善セバ概テ現行制度ヲ以テ適當ナルモノト認ム

參考表其ノ一

海軍水雷學校水雷術教程變遷一覽表

學 生		練 習 生	
年 次	教 程 別 及 修 業 期 間	教 程 別 及 修 業 期 間	練 習 生
明治十一年	士官傳習教程(期間 四箇月)	下士卒傳習教程(同上)	
同 十 二 年	練習士官教程(約一箇年標準)	練習下士卒教程(同上)	
同 十 五 年	長教程(將校教育ニ適用ス 期間 二箇年四箇月)	短教程(下士卒教育ニ適用主トシテ實地教育トス) 期間 六箇月	

同十七年四月	士官水雷學科長教程(二箇年内外) 士官水雷學科短教程(約五箇月) 之等兩教程ハ大差無キモ説明ニ精粗アリ	下士以下水雷學科教程(一年三箇月)
同二十年六月	甲種教程(尉官、機關士ノ修ムルモノ) 期間 約一箇年三箇月	乙種教程(掌水雷兵トナルベキ兵曹、水兵、上等兵曹ノ修ムルモノ) 期間 約六箇月
同二十年十一月	同前	同前 水雷工練習生教程ヲ加フ 水雷及同要具ノ工業並ニ之ニ關スル學術ヲ修ムルモノ 期間 一年六箇月
同二十二年八月	甲種教程(海軍大學校卒業者履行) 期間 約七箇月 尉官機關士教程(二十年六月制定ノ甲種教程ニ) 進ス	同前
同二十三年十二月	同前 但シ尉官及機關士教程ヲ改定シ各六箇月修業トス	乙種長教程(掌水雷兵トナスベキモノ) 期間 百十一日 乙種短教程(上等兵曹及掌水兵タリシ者ノ復習) 期間 六十五日 教員教程(水雷衛教員トナスベキ掌水雷兵) 期間 六十日
同二十四年四月	同前	同前 但シ水雷工練習生教程ヲ加フ 修業期間 百九十五日
同二十六年十一月	甲種教程 海軍大學校ニテ水雷術ヲ卒業セル海軍大尉	丁種長教程 掌水雷兵トナスベキ水雷術練習生ノモノ

<p>同三十五年二月</p>	<p>同三十年九月</p>	
<p>同前 外ニ水雷術練習所在勤及鎮守府中少尉ノ水雷術教程開始 期間 約六箇月 將校教程ニ於テハ無線電信術等ノ新ニ教科ニ入りシ等ノ爲三十五年十一月改正ノ教程總日數百二十日ニ増加ス</p>	<p>將校教程、海軍大學校將校科乙種學生卒業者 機關士教程、大尉學生 機關士教程、前記丙種ニ同ジ (備考) 海軍大學校將校科乙種學生ハ砲術、水雷術若クハ航海術ノ學理ノ教授ヲ受ク故ニ 實質ハ二十六年十一月ノ甲種教程ニ同ジ</p>	<p>期間 八十三日 乙種教程 海軍少尉又ハ海軍少尉候補生 期間 七十三日 丙種教程 海軍少機關士又ハ海軍少機關士候補生 期間 七十三日</p>
	<p>練習生長教程(前記丁種長教程ニ同ジ) 練習生短教程(前記丁種短教程ニ同ジ) 教員長教程(前記教員教程ニ同ジ) 教員短教程(前記教員復習者) 水雷工教程(前記ニ同ジ)</p>	<p>期間 百十日 丁種短教程 水雷術復習ノモノ(教員適任證書ヲ有スル者ヲ除ク) 期間 六十五日 水雷工教程 水雷工トナスベキ水雷術練習生ノモノ 期間 二十十日 教員教程 水雷術教員トナスベキ掌水雷兵ノモノ 期間 八十日 水雷術教員適任證書ヲ有スル水雷術復習者ニハ若干日間緊要ト認ムル科目ヲ履行セシム</p>

<p>同三十六年 十二月</p>	<p>同 前</p>	<p>掌水雷兵教程(掌水雷兵ト爲スベキモノ) 教員教程(水雷術教員ト爲スベキモノ) 水雷工教程(水雷工トナスベキモノ) 復習教程ヲ廢ス</p>
<p>同四十年四月</p>	<p>普通科學生教程 海軍中尉又ハ停年一箇年以上ヲ經タル少尉 期間 四箇月 高等科學生教程 海軍大學校乙種學生教程ヲ卒業セル海軍尉官 期間 六箇月 特修科學生教程 特ニ水雷術又ハ通信術ヲ修習セシムル必要アルカ 又ハ其ノ修習ヲ志願スル海軍佐尉官、兵曹長、上 等兵曹、上等信號兵曹 期間 四箇月乃至六箇月</p>	<p>普通科水雷術練習生教程 掌水雷兵ト爲スベキモノ 期間 六箇月 高等科水雷術練習生教程 水雷術ニ關スル重要配置、水雷術教員等ニ充ツ ベキモノ 期間 六箇月</p>
<p>同四十一年 十一月</p>	<p>第一回大中佐臨時講習員教程開始 期間 當初八週間 爾後漸減四週間</p>	<p>同 前</p>
<p>同四十四年九月</p>	<p>同 前</p>	<p>外ニ照準手ニ必要ナル臨時講習開始 明治四十年以後ニ於テ高等科水雷術練習教程ヲ 卒業シ現ニ高等科一等掌水雷證狀ヲ有シ將來照 準手タルニ適スル者ヨリ選抜 期間 約二箇月</p>

<p>大正二年三月</p>	<p>同 前</p>	<p>同 前 但シ照準手臨時講習ヲ廢シ特修科水雷術練習生 制度ヲ新設シ同教程ヲ定ム 期間 三箇月</p>
<p>同三年二月</p>	<p>同 前</p>	<p>同 前 但シ高等科水雷術練習生ヲ魚雷科練習生及電氣 科練習生ニ區分シ教育綱領ヲ改正施行ノコトト ナル</p>
<p>同五年十二月</p>	<p>同 前 但シ海軍大學校乙種學生修業期間ヲ四箇月半ニ短 縮ノ結果本校高等科學生ノ修業期間六箇月ヲ七箇 月半ニ延長ス</p>	<p>同 前 普通科水雷術練習生（資格、修業期間等 同前） 高等科水雷術練習生 特修科水雷術練習生 （備考）教育綱領ニ於テ高等科水雷術練習生教程 ヲ二分シ高等科水雷術魚雷練習生教程、 同電氣練習生教程トシテ本期ヨリ實施ス</p>
<p>同七年八月</p>	<p>高等科學生教程 高等ノ水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムルニ適當ナ ル海軍大尉又ハ中尉 期間 一箇年（從來ノ乙種學生ヲ廢ス） 普通科學生教程 海軍中尉又ハ少尉 期間 四箇月乃至六箇月 特修科學生教程 海軍佐尉官、兵曹長又ハ上等兵曹ニシテ志願スル 者又ハ特ニ必要ト認ムル者 期間 四箇月乃至六箇月 專攻科學生教程</p>	

<p>同十二年二月</p>	<p>同八年四月</p>	
<p>同前</p>	<p>高等科學生教程 本期ヨリ水雷學生通信學生教程ノニニ區分セル外 同前 但シ兩者共各他ノ一部ヲ兼修ス 其ノ他 同前</p>	<p>高等科學生教程ヲ卒業シタル者ニ就キ研究項目ヲ指定シ專攻セシムルモノ 期間 一箇年以内</p>
<p>高等科水雷術電氣練習生教程 主要機雷員、掃海員及教員其ノ他重要ナル電氣、機雷及掃海ニ關スル業務ニ充ツル者 期間 六箇月 (備考)從來ノ高等科水雷術練習生ヲ正式ニ二分シ其ノ教程ヲ充實シ特修科水雷術練習生ヲ廢シタルモノナリ</p>	<p>普通科水雷術練習生教程 同前 高等科水雷術魚雷練習生教程 發射機長、射手、魚雷教員等其ノ他重要ナル魚雷掃海ニ關スル業務ニ充ツル者 期間 八箇月(十三年十二月) 九箇月ニ改ム)</p>	<p>同前</p>

<p>同十四年四月</p>	<p>同前 但シ高等科學生教程中水雷術學生、通信術學生ノ自他一部ノ兼修ヲ止メ各主務術ヲ專修スル如ク教育綱領ヲ改ム</p>
<p>同十五年十二月 (自昭和四年末)</p>	<p>高等科學生教程 高等ノ水雷術又ハ電信術ヲ修習セシムルニ適當ナル海軍大尉又ハ中尉 教育綱領ニ於テ水雷學生ト通信學生トハ全然其ノ教程ヲ異ニス 期間 一箇年 普通科學生教程 海軍中尉又ハ少尉 期間 四箇月乃至六箇月 特修科學生教程 海軍兵科佐尉官、特務士官、准士官ニシテ志願ノ者又ハ必要ト認ムル者 期間 一箇年以内 専攻科學生教程 水雷學校高等科學生教程ヲ卒業シタル者 期間 一箇年以内</p>
<p>同前</p>	<p>普通科水雷術練習生教程 掌水雷兵ヲ養成スルモノ 期間 六箇月 高等科水雷術魚雷練習生教程 主トシテ魚雷及掃海ニ關スル重要配置員ヲ養成スルモノ 期間 九箇月以内 高等科水雷術電氣練習生教程 主トシテ電氣、機雷、掃海ニ關スル重要配置員ヲ養成スルモノ 期間 六箇月以内 (備考)本練習生ハ昭和三年八月達第一一九號ニ依リ高等科水雷術機雷練習生ト改稱ス</p>

(備考)

- 一、前表ノ外各種臨時講習、及特修科教程等隨時行ハレタルモ之ガ記載ヲ省略ス
- 二、機關官以下機關科下士卒ニ對スル電氣及水雷術ニ關スル教育ハ各其ノ教程ヲ設ケ明治十九年以來明治四十年海軍水雷學校令制定時迄行ハレタルモ(實際ハ海軍工機學校ニ於ケル教育設備未完ノ爲大正二年迄水雷學校ニ於テ行ハル)兵科將校下士

卒諸教程中ノ資格及修業期間等ノ小改變ト共ニ之ガ詳記ヲ省ケリ
 三、明治十一年ヨリ同三十八年ニ至ル海軍水雷學校學生練習生ノ入校員數、始終業年月日、成績一般等ノ詳細ハ掲ゲテ帝國海軍教育史第七卷備考文書第九ニ在リ
 四、昭和三年後半ヨリ昭和三年勅令第九十二號ニ依リ少尉候補生術科講習ヲ行ヒ普通科學生教程ノ實施ヲ中止シツツアリ

同 其ノ二

水雷術傳習初期ニ於ケル實地作業一般

年月日	試驗類別	裝藥斤數	數	成績	施行場所	事
一三、三、三六	外裝水雷	六〇、	一	發火	隅田川	威仁親王御送別ノ爲執行シタリ但シ小蒸汽舟ヲ用フ 同前、但シ不發ノ原因ハ前夜電纜ヲ殿栗ニ晒シ隔縁物ニ損所ヲ生セシニ由ル
同日	海底水雷	六〇、	一	不發	同	
同日	照準發水雷	六〇、	一	不發	同	同
一四、三、三〇	逆水雷	各二、五	一八	發一七 不發一	橫須賀	一個不發ノ原因ハ沈置ノ際裝藥罐ニ損所アルヲ覺知セザレバナリ
一四、四、九	電氣燈			可	練習所内	
一四、五、九	外裝水雷	六〇、	一	發	橫須賀	天覽ニ供ス

同	一四、六、一六	同	同	同	一四、五、二五	同	一四、五、九	同	同	一四、五、八	一四、五、九
外装水雷	海底水雷 電路啓閉器附	照準發水雷	海底水雷	浮標水雷 電路啓閉器附	外装水雷	照準發水雷	浮標水雷 電路啓閉器附	逆水雷	外装水雷	同	電氣燈
六〇、	三〇〇、	三〇〇、	一五〇、	三〇〇、	綿火藥 三〇〇、	三〇〇、	三〇〇、	六〇、	綿火藥 三〇〇、		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	不可	最可
發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	不可	最可
同	隅田川	同	同	横須賀	夏島沖	同	横須賀	横須賀	猿島沖	横須賀 港頭ニテ	練習所内
		同、水雷上ニ古船繫留發火ト共ニ飛散ス	同	皇后宮御覽	皇后宮行啓ノ途中御覽	同前、但シ水雷上ニハ古船一隻ヲ繫泊セシニ噴水ト齊シク粉塵トナリ高ク空中ニ飛散ス	天覽ニ供ス、水雷總數二十餘個沈没シ其ノ内二個ニ裝藥シタリ即チ其ノ一ナリ	初メ不發後損部ヲ發見シ直ニ修補シ發火ヲ施行シ 天覽ニ供セリ	御巡幸供奉ノ途次行フ	風力甚ダ強ク前日ヨリ海岸ニ据付ケタルガ故ニ塵埃機械ヲ汚シタルモノカ其ノ理由不詳	機關ノ運轉ヲ始メテヨリ凡ソ三十秒時

同	同	照準發水雷	二五〇、一不發	同	不發理由ハ電纜ノ一端ヲ揚陸スルニ當リ剛ラズ水中ニ没シ其ノ濕氣ノ爲電氣ハ纜ノ裝鎧ニ傳ハリ水中ニ放逸セルガ如シ
同	同	五〇、一不發	同	同	

(備考)之等實地試驗發火ハ水雷練習所ノ實業タルト共ニ又當時ノ海軍全般ノ實業タリシモノナリ、逆水雷トハ反裝水雷ノ初期語ナリ

同 其ノ三

海軍水雷學校練習艦艇變遷一覽表

編者曰 本表ハ變遷ノ詳細ヲ盡サントスルニアラズ頭記年代ニ於ケル練習用艦艇(隊)ヲ示シ當時ニ於ケル教育狀況ノ一參考資料タラシムルニアリ

年次	艦艇(隊)名	用途	記事
明治十一年	舊扶桑、舊比叡	兩艦裝備水雷兵器及特買船着水雷兵器傳習用	
同 十二年	舊攝津、第二丁卯	舊攝津 一般水雷術及圓材水雷 第二丁卯 主トシテハーペー水雷	
同 十九年二月	舊迅鯨	水雷術一般兼廳舍代用	三十八年十二月陸上ニ移轉迄使用セラレ

同三十四年八月	(一) 舊迅鯨 (二) 水雷艇五號	(一) 水雷術一般兼廳舎代用 (二) ハ朱式十四吋魚雷實地發射用	三十年七月ヨリ三十四年一月間鐵北次ヲ操江ヲ附屬セシメラル用途三十四年二月水雷艇第二十八號ヲ數ヶ月附屬セシメラル朱式十四吋魚雷實地發射ノ爲ナリ此種艦船附屬ノ嚆矢トス
同三十九年五月	(一) 山彦 (二) 水雷艇第三十號	(一) 保式十八吋魚雷發射用 (二) 保式十四吋	
同四十二年七月	(一) 高雄 (二) 第三驅逐隊(山彦、華月、文月) (三) 練習艇隊(白鷹、六六號、三十號)	(一) ハ無線電信、發射標的艦用 (二) ハ十八吋魚雷發射及乙雷敷設練習用 (三) 十四吋魚雷發射用	
同四十五年四月	(一) 富士 (二) 第三驅逐隊(叢雲、夕霧、皐月) (三) 第四艇隊(白鷹、二十九、三十六號)	(一) ハ十八吋水中發射管發射及標的艦用 (二) ハ十八吋水上及乙雷敷設 (三) 十四吋水上發射管發射用	驅逐隊及艇隊ノ編制ハ屢次變更アリ
大正二年四月	(一) 朝日 (二) 第三驅逐隊(澄雲、夕霧) (三) 第二艇隊(雄、鴻、鷗、白鷹)	(一) 十八吋水中發射管發射及標的艦 (二) (一)前記ノ(二)ニ同シ	
同四年五月一日	(一) 朝日 (二) 橋立 (三) 津輕 (四) 第三驅逐隊(夕暮、夕立、白露三日月) (五) 第二艇隊(雄、鴻、鷗、白鷹)	(一) 前記ノ通り (二) 無線電信實習 (三) 機雷敷設兼標的艦 (四) 十八吋水上發射管發射及乙雷敷設用	(三) ハ此種艦使用ノ嚆矢

	<p>(三) 十四吋水上發射管發射用</p>		
<p>同六年四月一日</p>	<p>(一) 生駒 (二) 周防 (三) 津輕 (四) 浦風 (五) 第八驅逐隊(遊雲、夕霧、陽炎、曙、朧) (六) 第二潜水艇隊(一、二、十三號) (七) 第三驅逐隊(同前) (八) 第二艇隊(同前)</p>	<p>(一) 十八吋及二十一吋水中發射兼標的艦 (二) 無線實習兼標的艦 (三) 無線實習兼標的艦 (四) 十八吋及二十一吋水上發射 (五) 掃海 (六) 機能構造用實習 (七) 十八吋水上發射 (八) 同前</p>	<p>(一) 八六年一月水校兼務二十一吋水中發射實習ノ始メナリ (二) 共ニ此種艦(隊) 附屬ノ始メ</p>
<p>同十年四月</p>	<p>(一) 山城 (二) 阿蘇 (三) 北上 (四) 第三驅逐隊(汐風、夕風、太刀風、帆風) (五) 第七驅逐隊(春風、初雪、初春) (六) 第八驅逐隊(神風、吹雪、初霜、如月、響、有明) (七) 浦風 (八) 第二艇隊(雄、白鰐、鴻、鷗) (九) 第二潜水隊(一四、一五號)</p>	<p>(一) 二十一吋水中發射兼標的艦 (二) 機雷敷設兼標的艦 (三) 二十一吋水上發射 (四) 二十一吋水上發射 (五) 十八吋水上發射及一號機雷 (六) 掃海 (七) 二十一吋水上發射、三號掃海 (八) 十八吋水上發射 (九) 機能、構造用法實習</p>	
<p>同十五年四月</p>	<p>(一) 金剛 (二) 阿蘇 (三) 第二十七號驅逐艦 (四) 浦風 (五) 第五潜水隊(二〇、二二、二三號) (六) 第一驅逐隊(驅、沼風、野風、波風) (七) 第二掃海隊(響、夕暮、如月夕立、夕暮、神風)</p>	<p>(一) 五三噸水中發射兼標的艦 (二) 前顯 (三) 六一噸水上發射 (四) 三號掃海 (五) 六一噸水上發射 (六) 機能、構造用法 (七) 五三噸水上發射 一號機雷敷設發射進路艦 (八) 掃海</p>	<p>一、(一) ハ會テ大正七年ヨリ八年ニ亘リ豫備艦タル間發射管及通信機ヲ實習ノ爲メ使用セシコトアリ 二、六一噸水上發射ハ大正九年長良實習ニ初マリ爾後五十餘ヲモ使用セリ</p>

<p>昭和四年十二月</p>	<p>(一)長門 (二)北上 (三)第三十驅逐隊 (四)第四驅逐隊 (五)第七驅逐隊 (六)第九潜水隊</p>	<p>(一)發射管操法、射法實習 (二)機雷敷設、防雷具實習、七驅下聯合晝夜間前路掃海、射法實習、潜水艦射法實習、標的隊通信實習、戰術實習 (三)發射機操法、發射、射法實習、戰術實習 (四)發射機操法、發射、一號機雷敷設、射法實習、通信實習、戰術實習 (五)二、三、四號掃海、爆雷實習、北上、聯合晝夜間前路掃海、泊地掃海、射法實習 (六)潜水艦實習、發射、射法實習、機雷敷設、潛航實習、通信實習、水中通信實習</p>	<p>一部ハ碇泊ノ儘使用スルモノアリ</p>
----------------	---	--	------------------------

(備考)一、前記用途欄ハ單ニ主要事項ヲ記スルニ止マル尙三十九年以後ハ練習艦艇ノ大部ヲ擧ゲテ毎年一回以上戰術演習ヲ爲スヲ例トセリ

同 其ノ四

歴代所長、迅鯨艦長、校長官氏名並ニ就退任年月日一覽

官 氏 名	就職辭令	就職辭令年月日	退職辭令年月日
大佐 福 島 敬 典	監 督	明 治 一 一 一 九 一	明 治 一 二 一 九 一
大尉 柴 山 矢 八	水所 雷 局 長	一 二 一 九 一 一 五	一 九 一 三 一 二 二
同 上 村 正 之 丞	迅 鯨 副 長 心 得	一 九 一 五 一 一 〇	二 三 一 五 一 一 三
大佐 田 中 綱 常	迅 鯨 艦 長	二 四 一 六 一 一 七	二 四 一 二 一 一 四
同 諸 岡 頼 之	同	二 四 一 二 一 一 四	二 五 一 一 一 一 七
同 森 又 七 郎	同	二 五 一 一 一 一 七	二 六 一 二 一 一 二
同 森 又 七 郎	所 長	二 六 一 二 一 一 二	二 七 一 七 一 一 三
同 窪 田 祐 章	同	二 七 一 七 一 二 八	二 八 一 七 一 二 九
同 上 村 正 之 丞	同	二 八 一 七 一 二 九	二 九 一 一 一 二 六
同 諸 岡 頼 之	同	二 九 一 一 一 二 六	三 〇 一 二 一 二 七
同 餅 原 平 治	同	三 〇 一 二 一 二 七	三 一 一 三 一 二 三
同 内 田 善 太 郎	同	三 一 一 三 一 二 二	三 五 一 六 一 一 五
同 飯 田 篤 之 進	同	三 五 一 六 一 一 五	三 六 一 一 〇 一 二 七
中佐 木 村 浩 吉	所 長 心 得	三 六 一 一 〇 一 二 七	三 七 一 一 一 一 二

同	同	同	同	同	同	同	同	少將	同	大佐	少將	同	同	大佐
大谷幸四郎	桑島省三	吉川安平	齋藤半六	堀内三郎	川原袈裟太郎	近藤常松	森越太郎	矢島純吉	鈴木貫太郎	岡田啓介	北古賀竹一郎	木村浩吉	中村靜嘉	荒木亮一
同	同	同	校長	砲術學校校長	同	同	同	同	同	校長	兼橫校水雷團長	校長	所長	兼橫所水雷團長
							大正							明治
一三一六一	一〇一二一	九一二一	七一二一	七一九四	五一二一	四一二一三	三一二一	四四一二一	四三一二五	四一九二五	四一八二八	三九三二四	三八一一二四	三七一一二
								大正						明治
一三一二一	一二一六一	一〇一二一	九一二一	七一二一	七一九四	五一二一	四一二一三	三一二一	四四一二一	四三一二五	四一九二五	四一八二八	三八三二四	三八一一二四

同	市村久雄	同	昭和	五―二―一	
同	松山茂	同	昭和	四―九―二	五―二―一
同	八角三郎	同	昭和	二―二―一	四―九―二
同	高橋律人	同	昭和	一五―二―一	二―二―一
同	長澤直太郎	同	昭和	一四―一〇―二〇	一五―二―一
同	飯田延太郎	同	昭和	一三―二―一	一四―一〇―二〇